

地域共生社会推進フォーラム開催

令和5年3月21日(火・祝)、昨年8月の豪雨災害の経験から『災害に強いまちづくり』を考える地域共生社会推進フォーラムを開催し、地区社会福祉協議会や民生委員児童委員、福祉協力員をはじめ、災害支援に関心のある地域住民などおよそ250名の方々が参加しました。



第1部は被害のあった町会長やボランティア、災害ボランティアセンター運営に携わった職員らが『災害に強いまちづくり』と題し、パネルディスカッションを行いました。

参加者からは「災害でなくても平時の地域とのつながりが大切だと強く感じた」「支援者間の連携、専門職とボランティアや地元地域との役割分担は必要であることが分かった」等の声がありました。



左：牧口 肇氏
(鳥越地区前三坂町町会長)
右：澤田 昭彦氏
(鳥越市民サービスセンター長)



左：上野 優子氏
(防災士・ボランティア)
右：西田 真人
(白山市社会福祉協議会 地域福祉課長補佐)



左：門倉 美樹子
(白山市社会福祉協議会 地域福祉課長)
右：李 仁鉄氏
(いいがた災害ボランティアネットワーク理事長)

第2部では、NPO法人にいがた災害ボランティアネットワーク理事長の李 仁鉄氏をお招きし、「災害にも強いまちづくりをめざして」というテーマで講演いただきました。

「顔が見える関係はゴールではなく、そこから腹を割って話せる関係を目指す姿勢が大事」「支える人を支えることが必要」など数多くのキーワードを交えてお話をされ、参加者は熱心に聞き入っている様子でした。



白山市共同募金委員会からのお知らせ

令和4年度赤い羽根あったか募金は1月1日～3月31日の期間、募金活動を行いました。多くのご支援、本当にありがとうございました。

お寄せいただいた募金は、白山市共同募金委員会を通じて、全額下記の団体に助成させていただきます。助成団体はこの助成金を活用し、今年度予定している計画の事業を実施していきます。

令和4年度 赤い羽根あったか募金実績報告

| 団体名 | 事業名 | 目標額 | 実績 |
|-----------------------------|------------------------------|----------|----------|
| 石川社会貢献部 絵日記こども食堂 | あったか料理を届けたい、 みんなの子ども食堂事業 | 300,000円 | 362,557円 |
| 地域づくり塾 NASUKAH | まちづくりを楽しく進めるための ワークショップ事業 | 200,000円 | 36,400円 |
| ハクサンサステナ 給食プロジェクト | オーガニック給食実現を目指す 食育推進事業 | 100,000円 | 20,097円 |
| 親子のわくわくシェアハウス あまのんち | 地域の居場所づくり事業 | 220,000円 | 27,362円 |
| 白山・野々市 災害ボランティア会 指定なし | 災害に対する意識向上の為の出前講座 | 200,000円 | 62,498円 |
| 合 計 | | — | 171,804円 |
| | | | 680,718円 |

※(指定なし)については、白山市共同募金委員会審査委員会で審査の上、各団体に全額助成させていただきます。

令和4年度 赤い羽根あったか募金実績の内訳

| 募金方法 | 件数 | 金額 |
|--------|------|----------|
| 法 人 | 11件 | 298,000円 |
| そ の 他 | 3件 | 30,017円 |
| 個 人 | 33件 | 116,206円 |
| 募 金 箱 | 81件 | 111,234円 |
| 職 域 | 11件 | 75,685円 |
| イ ベ ント | 3件 | 9,642円 |
| 街 頭 | 5件 | 39,934円 |
| 合 計 | 147件 | 680,718円 |

ご寄付いただいた企業さま(敬称略・順不同)

【松任地域】(株)フジタ印刷
【美川地域】白山設備、中村FPコンサル
【尾口地域】(株)山口光洋舎
【その他】コマツユニオン北陸支部、株式会社ニチレイ

寄付して下さった団体・個人の皆さま(敬称略・順不同)

しゅしゅ、白山ふれあい探訪会、
白山市食生活改善推進協議会山麓ブロック尾口地区、
松任ふれあい赤十字奉仕団、瀬口 達也、瀬口 美貴、
一枚田勝美、岸本 元紀、高瀬 真琴、相木 敏子

募金箱設置場所

(敬称略・順不同)

- (松任地域)** 白山市福祉ふれあいセンター、コメヤ薬局本店、コメヤ薬局山島台店、コメヤ薬局安養寺店、コメヤ薬局水戸町店、コメヤ薬局月橋店、おもてや、カフェときどきバーたけだ、茶処 善与門、石川ルーツ交流館、河内市民サービスセンター、美川図書館、美川スポーツセンター、盛本自動車、山崎デイリーストア、Aコープ蝶屋店、マルエーミニ美川店
- (美川地域)** 白山市役所 美川支所、白山市社会福祉協議会 美川支所、美川文化会館、美川図書館、美川スポーツセンター、盛本自動車、山崎デイリーストア、Aコープ蝶屋店、マルエーミニ美川店
- (河内地域)** 道の駅しらやまさん、マルエーLet's鶴来店、マルエーコア井口店、白山市鶴来総合文化会館、クレイン、JA白山 よらんかいねえ広場、鶴来図書館、白山郷公園体育館、おはぎ屋、白山市社会福祉協議会鶴来支所、白山市役所 鶴来支所、鶴来図書館本町分館、公立つぎ病院、大阪屋ショッピング鶴来店
- (吉野谷地域)** 白山ろく体育館、大門温泉センター、吉野谷市民サービスセンター、吉野谷コメヤ薬局
- (鳥越地域)** 道の駅一向一揆の里、食彩館せせらぎ、鳥越市民サービスセンター、白山市社会福祉協議会鳥越支所、番場屋ストア、一揆そば長助
- (尾口地域)** 尾口市民サービスセンター、道の駅瀬女
- (白峰)** 白峰温泉総湯、白峰市民サービスセンター



ご寄付ありがとうございました
(R5.1/1~3/31 受付分)

白山比咩神社様

お詫びと訂正

令和5年2月22日発行の広報ふれあいはくさん97号におきまして、2Pと4Pの記載に誤りがございました。深くお詫びいたします。すとも、謹んで訂正させていただきます。

〈訂正前〉(株)大阪有機化学工業
(株)加賀運送
〈訂正後〉大阪有機化学工業(株)
(株)加賀運送



白山市社会福祉協議会は地域の課題を地域のみなさんと一緒に考え、解決に向かう活動を推進しています。



このコラムでは、みなさんが実際に行っている活動を紹介し、活動されるみなさんの課題解決などのヒントにしていただきたいと思います。

七原町ピンピンサロン

サロンを始めて、10月で1年が経とうとしている七原町のピンピンサロンです。昨年の4月よりピンピン体操をはじめ、10月にはその名前を引き継ぎ「ピンピンサロン」の名前でサロンを立ち上げることが出来ました。



七原町は昔からある集落で、町名の由来は七人の「原」と言う苗字の人が住んでいたことから名付けられたそうです。今では原邸も一つ、二つと減り、その跡地は分譲地となり、町名の由来となった原さんが少なくなって寂しく感じます。また、七原町は、ひとり暮らし、高齢者ふたり暮らしの方々が多く住んでいるとても平均年齢の高い町です。

サロンでの月2回の体操のあとは、豊かで自由な時間が流れます。おいしいお菓子やお茶も楽しみながら、何十年も連れ添った夫の愚痴や食べものの好き嫌いのお話など、2・3人のグループになり盛りあがっています。

ある人は、「体操と名のつくものは若い人がするものや」と思っていたようで、「自分の家から歩いて来られる場所で、しかも椅子に座って出来る、こんな便利な体操もあるんやなあ…」と驚かれていました。そしてそれをサロンとして開いてくれたことが一番ありがたいと話されていました。

“筋肉は嘘をつかない”とサポーターの方々に教えてもらったことで、自分なりに手足を鍛え、人の手を借りずにいろいろなことに頑張っていきたいという思いになっています。これからも、筋肉の貯筋ができるよう精進したいものです。

サロンは、地域の方同士が出会い、交流し、地域のつながりづくりができる「みんなの居場所」です。

地域の中の安心できるこどもの居場所づくり

市内のこども食堂ネットワーク事業の取り組みや、子どもの安心できる居場所として、地域で開催している食堂の紹介などを掲載した「笑顔咲くみんなの食堂」を作成しました。(A5版16ページ)

社会福祉協議会ホームページからもダウンロードできますので、ご覧ください。



「里山スマイルセミナー」を開催しました



講演会の様子



パネルディスカッションの様子

「里山への移住」と「終活」をキーワードに「里山スマイルセミナー」と題し、R3年度からR4年度にかけて移住体験をはじめとし様々な体験・研修を行ってきました。その一環として令和5年3月10日(金)に吉野谷公民館にてセミナーを開催しました。

21名のご参加をいただき、前半はエンディングノートの書き方についての講演、後半は実際に山ろく地域を活動の場として普段活動されている医療・福祉の方それぞれ1名ずつお招きしパネルディスカッションを行いました。テーマは「山ろく地域で暮らし続けるために必要な資源とは何か」とし、参加者の方からも積極的な発言があり、共に考える場を持つことができました。

今回得た知見を参加者の方には持ち帰っていただき、これからの地域福祉活動に活かしていただければと思います。

ひきこもりに関する講演会「つながることを楽しもう!」が開催されました



2月23日(木・祝)福祉ふれあいセンターで、講演会「つながることを楽しもう!~ひとのま宮田さんにひきこもりの人とつながった話をきくひととき~」が催され、約60名がお話に耳を傾けました。

講師の宮田隼さんは2011年より富山県高岡市で一軒家を「ひとのま」として開放し、不登校・ひきこもり・孤立・発達障がい・精神疾患・DV・生活困窮・刑務所からの出所者様々な背景を持つ人たちが集う場となっています。

講演会では、家庭内暴力を止めたくて家から脱走してしまう青年、とにかくモノを盗み続けてしまう少年、興味が止められず虫を食べたくなった人の欲求をみんなで叶えたお話など...

困っていることに「支援」するのではなく、「友人の様に関わる」ことでつながりを紡ぎだしてきた宮田さんのお話は、美しい物語や崇高なエピソードとは言い難い、人間くさくて、心が丸裸にされるようなお話でした。笑いで会場が包まれる場面もあり、講演の「聞いた人に元気になってもらう」という目的は、ばっちり達成された様子でした!

白山市社会福祉協議会では、一歩踏み出したいと願う方を応援する「就労準備支援事業」を行っております。一歩踏み出す、と言っても、そもそも何から始めていいのかわからない方を対象に、一人一人にあわせた内容で無理なく応援していきます。ご興味のある方は、ぜひお話しかせてください! (詳しくはQRコードからホームページをご確認ください)

社協相談窓口・就労準備支援事業についてはこちらから▶

